本学における栄養教諭等志願者に対する就職支援の現状と課題

Our Career Support for Students Wishing to Be a Diet and Nutrition Teacher/ School Dietitian: Current Situation and Challenges

田 淵 満 子* ・笠 原 優 子* ・藤 原 尚 子*
Mitsuko TABUCHI, Yuko KASAHARA, Hisako FUJIWARA

As a form of career support for students who aspire to be a diet and nutrition teacher/ school dietitian, we have provided a Follow-up Course since 2007 to prepare and guide aspirants for the respective recruitment exams. On average, 15 sessions were conducted November to July, mostly on weekends, for approximately two hours per session. The course focused on exercises such as mock exams and group discussions. The results of the recruitment examination revealed a slight increase in the number of students who were successful in the exams since the commencement of the course, compared with the earlier results. This development shows that the course serves as a effective in the useful preparation for recruitment exams for students who aspire to be a diet and nutrition teacher/ school dietitian.

Keywords: diet and nutrition teacher, school dietitian, career support
キーワード：栄養教諭、学校栄養職員、就職支援

1．はじめに

平成16年１月の中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備について」を受けて、平成17年度から「栄養教諭」制度が創設された。これは、成長期の食習慣は将来の食習慣の形成に対して大きな影響を及ぼすにもかかわらず[1)] 児童生徒の食生活の乱れが深刻化する中で、学校における食に関する指導を充実し児童生徒が望ましい食習慣を身に付けることができるようにすることを意図したものである。また、学校教育法第37条13に「栄養教諭は、児童の栄養の指導及び管理をつかさどる。」

*くらしき作陽大学食文化学部栄養学科
Faculty of Food Culture, Department of Dietetics, KURASHIKI SAKUYO University

と規定され、栄養教諭は、栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つ教育職員となり、学校栄養職員が行っている栄養管理や衛生管理等の学校給食の管理に加えて、食に関する指導を一体的に扱うこととされた。[2~4)]

創設から約10年が経過し、栄養教諭の配置状況は、平成17年から平成27年の間に34名から5,356名とその数は増加している[5)]。

本学においても、平成17年度から栄養教諭養成大学として授業科目が開講され、平成20年度から栄養教諭免許取得者を輩出している。しかし一方、栄養教諭免許の取得を途中で諦めた者も少なくない。その理由として栄養教諭としての採用の厳しさと免許に対する魅力の低さが指摘されているが[6)]、本来、栄養教諭取得者は、その免許でその職に就き活躍することが望まれている。平成26年度に実施された(平成27年度新規採用)岡山県の栄養教諭等採用試験では、栄養教諭の試験には、96名が受験し、合格者は５名で合格倍率は19.2倍であった。学校栄養職員の試験には34名が受験し、合格者は１名で合格倍率は34倍であった。どちらの採用試験も大変厳しい状況であった。

そこで、本学では、採用試験に向けての専門科目、法令の勉強会、模擬全体(集団)討議、模擬試験等を実施し、学校教育、食育等について更なる学修を深めるとともに情報交換を図ることを目的として『栄養教諭・学校栄養職員採用試験対策フォローアップ講座』(以下『フォローアップ講座』とする)を平成19年度から開始した。この講座の実施については、栄養教諭科目担当教員のみならず進路支援室と連携することで効果を上げることが予想された。

本稿は、フォローアップ講座について平成19年度の開始から７年が経過し、平成25年度までの実績とその課題について報告する。

２．フォローアップ講座の内容

2-1　栄養教諭・学校栄養職員採用試験の概要

毎年４月に、各県において県教育委員会より栄養教諭・学校栄養職員採用試験(以下採用試験とする)の要項がホームページに公開され、その要項に従って出願を行う。試験実施は、１次試験(７月実施)と２次試験(８月下旬)が課せられる。１次試験の結果発表は、８月上旬に各県教育委員会より合格者名がホームページ上に公開され、それと同時に合格者には文書にて通知される。最終合否は、１次試験と２次試験の結果に基づいて判定され、９月末から10月上旬に1次試験結果と同様に開示される。平成20年度より全国的に栄養教諭としての採用が開始され、今までの学校栄養職員の試験区分とは異なり、小学校中学校教員試験区分に追加された。岡山県では平成26年度新規採用者から栄養教諭の採用が始まり、従来の学校栄養職員の試験に加えて、教諭としての資質をより求められるような試験内容になっている。

2-2　フォローアップ講座の詳細

本講座の概要については表1に示した。講座の目的は、採用試験の受験のために専門科目、法令勉強会、模擬全体(集団)討議、模擬試験等を実施し、学校教育、食育等について更なる学修を深め

るとともに情報交換を図ることである。特に、栄養教諭の任用がはじまってからは、教員としての使命や資質を大いに求められるようになっている。これらのことからも採用試験受験に対して、受講生相互のモチベーションをあげるために同じ目的の仲間づくりを図り、良好な人間関係を構築することも大切になってきた。また、受講生の目標や目的をより明確にし、採用試験過去問の分析と解説、教育用語や時事問題の自主学習、受験を予定している各県の食育推進情報・教育に対する課題について受講生でグループ学習と発表を行うなどの内容を組み入れて計画的にかつ継続的に講座を行っている。

さらに、先輩栄養教諭や本学子ども教育学部の教員、市内の校長先生方を講師に招き、受験対策の講話を聴き、受験についての詳細は、先輩の受験対策や実際の勉強方法なども参考にしつつ、定期的に模擬テストの実施や集団討議の演習を行っている。具体的な方法としては、次の通りである。

模擬テスト　専門分野に関する内容については、担当教員が独自に作成したものを受講生に対して実施し、受講生自身が採点を行い教員が解説をしている。また、一般教養・教職教養に関する内容については、本学が依頼した外部講師が講座で実施している。

集団討議の対策　受講生４～６人を１グループとして討議課題に基づき、岡山県の採用試験形式で20分程度討議する練習を行っている。これを繰り返すことで、集団討議自体に慣れ、討議の時間配分を体感させる目的もある。模擬面接官として教員、進路支援室担当者が指導講評を行い、討議課題については各県の過去問題を参考に進路支援室担当者作成の冊子を活用している。実際の試験においても現役学生と受験経験者が同じグループで討議することがあり、その対策としては先輩栄養教諭（卒業生）の協力を得て練習し、さらに、現役学生には担当教員が補習するなど、自主練習の時間も設けている。

受験計画　以前は、各学生が１つの県のみを受験していたが、平成20年度からは中四国エリアを視野に複数の県を受験するよう勧め、各県の受験日を確認した上で受験カレンダーを作成し、受験を計画的に進めている。受験生自らが受験計画を立てることにより出願の手続きや勉強のペース配分も明確になっている。

時事問題や教育用語　各々が調べ学習をし、学習したことをまとめて発表することで受講者全員に共通理解をさせている。併せて、教員が食育推進や食に関する指導についてのニュースや新聞記事の切り抜きをプリントにして配布することで関心を高める工夫をしている。

先輩の講話　栄養教諭等で採用された先輩（本学の卒業生）を招き、受験についての経験談や児童生徒の実態、仕事のやりがい、魅力を語ってもらうことで将来の夢に対するモチベーションアップにつながっている。市内の校長先生からも、期待される栄養教諭像についての講話をしてもらい、学校現場を身近に感じさせる取り組みをしている。

進路支援室のサポート　進路支援室の担当者は、採用試験を受験した学生からの受験報告書を詳細にまとめることにより、次年度以降の対策を講じている。また、受験に失敗した受講生の就職についても、臨時採用の情報提供等を行うことによって積極的に支援している。このように双方向で受講者のサポートにあたっている。

表1 『フォローアップ講座』の概要

実施主体：栄養教諭科目担当教員，進路支援室
対 象 者：食文化学部3・4年生の栄養教諭等希望者，既卒者の希望者
実施場所：くらしき作陽大学
実施期間：各月2回程度，年間15～20回
実施日時：主に土曜日もしくは日曜日　13:00～15:00
経　　費：徴収なし
連絡方法：希望者において3・4年生には授業で通知，既卒者には文書にて通知
実施内容：表2に示す（例：平成24年度，一部抜粋）

表2 『フォローアップ講座』実施内容（平成24年度）（一部抜粋）

回数	開講日	主な内容	受講者数
1	H23.11.10㈭	講座ガイダンス 採用試験過去問の分析と解説 （平成19年から5年間分） 集団討議の見本（4年生＋既卒者）	16名
2	H23.12.18㈰	先輩の講話（採用の決定した4年生） 冬休みの対策	19名
3	H24. 1. 8㈰	専門試験の問題分析，傾向と対策 模擬テスト①	15名
4	H24. 2. 5㈰	先輩学校栄養職員からの講話	17名
5	H24. 2.12㈰	衛生管理について 時事問題や教職専門試験 用語解説に対する自主勉強の方法について	17名
6	H24. 2.26㈰	子ども教育学部H先生の講義	13名
7	H24. 3.11㈰	集団討議の内容と方法 模擬テスト②	13名
8	H24. 3.25㈰	志願書の書き方と点検 集団討議の対策	12名
9	H24. 4. 8㈰	先輩栄養教諭からの講話（卒業生）	14名
10	H24. 4.15㈰	集団討議の対策 模擬テスト③	12名
11	H24. 4.29㈰	集団討議の対策 模擬テスト④	15名
12	H24. 5. 6㈰	集団討議の対策 模擬テスト⑤	14名
13	H24. 5.20㈰	受講生からの調査発表会	11名
14	H24. 6. 3㈰	集団討議の対策 模擬テスト⑥と解説	11名
15	H24. 6.17㈰	S先生の講義と演習 模擬テスト配布	13名
16	H24. 7. 1㈰	集団討議の対策 模擬テスト⑦と解説	12名

担当：藤原，田淵，進路支援室

3．本学における「栄養教諭·学校栄養職員」合格者数の年次推移

本学では、平成14年度の採用試験より学校栄養職員の合格者を輩出しており、さらに平成20年度の採用試験からは栄養教諭合格者も輩出している（表3）。『フォローアップ講座』は平成19年度より開始され、講座の開始年度（平成19年度）の受講者は平成20年度採用試験を受験した。本学における「栄養教諭·学校栄養職員」の合格者数の年次推移をみると、採用年度の平成20年度から若干であるが増加傾向であると推察される。そこで合格者の採用年度において、平成14年度から19年度を『フォローアップ講座』の「未実施」群、平成20年度から25年度を「実施」群とし、本講座の実施状況により両群を比較、検討したところ、「未実施」群の平均合格者数は1.7人であったのに対し、「実施」群の平均合格者数は2.5人であった（表4）。両群の間に有意差は認められなかったが、本講座の実施後、平均合格者数が1.7人から2.5人へ増加したことは、この講座の有用性について評価できる点である。また、「栄養教諭·学校栄養職員」の都道府県別合格者数では、岡山県の合格者数が圧倒的に多いが、本講座実施後の平成20年度からは他県の合格者数が増加しており、本学の合格者数全体の増加につながっていると推察される（表5）。他県の合格者数の増加背景においても、岡山県と同様に受験する県の食育推進情報・教育に対する課題についての本講座による学習効果が示唆された。

なお、解析方法は、2群間の比較についてはMann-WhitneyのU検定を用いた。統計処理は、統計ソフトIBM SPSS12.0Jを使用し、有意水準は5%（両側検定）とした。

表3　本学における「栄養教諭・学校栄養職員」合格者数の年次推移とその内訳

採用年度	栄養教諭·学校栄養職員 合格者数	内訳	
		栄養教諭	学校栄養職員
14年度	2	-	2
15年度	1	-	1
16年度	1	-	1
17年度	1	-	1
18年度	1	-	1
19年度	4	-	4
20年度	2	1	1
21年度	0	0	0
22年度	3	1	2
23年度	3	2	1
24年度	5	1	4
25年度	2	1	1
計	25	6	19

単位（人）

表4　『フォローアップ講座』の実施状況と「栄養教諭・学校栄養職員」合格者数の年次推移

採用年度	『フォローアップ講座』実施状況	栄養教諭・学校栄養職員合格者数（人）	平均合格者数（人）	実施状況の群間比較 p値*
14年度	未実施	2	1.7	0.250
15年度		1		
16年度		1		
17年度		1		
18年度		1		
19年度		4		
20年度	実　施	2	2.5	
21年度		0		
22年度		3		
23年度		3		
24年度		5		
25年度		2		

*Mann-WhitneyのU検定

表5　本学における「栄養教諭・学校栄養職員」の都道府県別合格者数

採用年度	栄養教諭・学校栄養職員合格者数	都道府県別合格者数						
		岡山県	兵庫県	島根県	広島県	山口県	香川県	愛媛県
14年度	2	2						
15年度	1					1		
16年度	1	1						
17年度	1	1						
18年度	1	1						
19年度	4	4						
20年度	2	1						1
21年度	0							
22年度	3	2						1
23年度	3	1		1			1	
24年度	5	4	1					
25年度	2		1		1			
計	25	17	2	1	1	1	1	2

単位（人）

4．今後の展望

この『フォローアップ講座』は、栄養教諭養成課程の講義や演習とは異なり、採用試験合格という目的に向かって、現役学生と既卒者がそれぞれの立場で学ぶ場である。また、栄養教諭養成担当教員および進路支援室の担当者が、それぞれの専門性を活かして大学全体で連携を図りながら協働して本講座を運営することは、受講生の採用試験合格に向けて大いに貢献している。多角的に採用試験の対策をたて、情報を共有しながら進めることが、合格者の増加をもたらしていると考えられる。受講生にとっては、大学が拠点になることで、繋がりの輪が広がり、彼らが先輩後輩として切磋琢磨している姿が覗える。

現在、栄養教諭に求められる役割は多岐にわたり、特に食に関する指導では、担任教諭や教科担当教諭との連携による専門性の発揮が望まれている[7~9]。これらのことからも、本講座によって得られたスキルは、単に採用試験に合格することのみならず、将来の職責につながると考えられる。しかし、受講生の実態を見ていると採用試験の合否にとらわれて、合格することだけが最終目的になっているようにも見受けられる。今後は、栄養教諭等志願者の積極的な参加により、合格がゴールではなくスタートとなる意識を高めていく教育も必要だと考えている。さらに、本講座で培った力を発揮することで、円滑な教職生活のスタートをきることができ、学校現場での即戦力になることを願ってやまない。

文　献

1）Singer MR，Moore LL，Garrahie EJ，et al：The Tracking of Nutrient Intake in Young Children：The Framingham Children's Study，AM J Public Health，85，1673-1677（1995）

2）河野公子：栄養教諭創設の趣旨と職務等について，日本調理科学会誌，39（5），340（2006）

3）金田雅代：栄養教諭制度について，栄養学雑誌63（1），33-38（2005）

4）金田雅代：栄養教諭と食に関する指導，日本食生活学会誌15（2），77-83（2004）

5）文部科学省：平成17～27年度栄養教諭配置状況（平成27年4月1日現在）http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/__icsFiles/afieldfile/2015/07/02/1257966_0.pdf，（2015-08-18）

6）石川顕子，藤原尚子，田淵満子，山下静江：栄養教諭養成課程における現状と課題，くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要，43（1），1-6（2010）

7）鈴木洋子：小学校における家庭科担当教員と栄養職員（教諭）の連携による食育の実態と課題，日本教科教育学会誌30（2），9-15（2007）

8）坂本達昭，八竹美輝，春木 敏：担任教諭が主体となる社会科および総合的な学習の時間における食に関する指導の実施可能性と学習成果の検討，栄養学雑誌，71（2），76-85（2013）

9）尾﨑はすみ，尾崎莉沙，小池未菜，他：聴覚障がい幼児の咀嚼習慣と口腔機能発達を支援する食教育の実践，栄養学雑誌72（4），200-211（2014）